

柏市の小山台遺跡で調査された、縄文時代中頃の竪穴住居跡から、「石囲い炉」(石で囲った囲炉裏のような火をたく場所)＝写真＝がみつかりました。この炉は、住居の中央よりやや北側にあり、石のほとんどは使われなくなった石皿や、石斧などの石器を再利用してつくられていました。

それらの石材は千葉県内では手に入らないものです。房総の古代人にとって「石」は貴重な物であり、こわれて使われなくなった道具(石器)も大切にリサイクルしたのでしょうか。

▶ 炉の形は、約50cm×70cmほどの長方形。炉の材料は、磨石15点、軽石1点、石皿11点、凹石7点、打製石斧1点、礫8点と土器片4点でした。



千葉県文化財センターでは、県内で調査している主な遺跡について、現地説明会を実施しています。

木更津市丹過遺跡では奈良時代の役所跡に関連すると思われる建物跡等が、市川市道免き谷津遺跡・雷下遺跡では縄文時代から中世のたくさんの遺構や遺物が、それぞれ公開され、地元の人々をはじめ、多くの方々がつめかけ、大変暑い中、みなさん熱心に説明に耳を傾けていました。

当日寄せられたアンケートから、参加された皆さんの感想を拾ってみました。

- 地域の歴史が塗り替えられるような発見?ロマンを感じました。
- 自分が生まれ育ったところにも、こんな遺跡があったなんて感動しました。
- 展示の中に、建物の模型などが造られていて、とても分かりやすかった。
- また是非参加したい。
- 道路になってしまうのはもったいない
- 報告書やグッズの販売もしてほしい

等の、たくさんのご意見ご感想をいただきました。

なお、現地説明会の模様は、千葉県文化財センターHPでもご覧いただけます。

8月10日木更津市丹過遺跡



8月20日市川市道免き谷津遺跡



千葉県内では、1年間に500件以上の発掘調査が行われています。この展示会は、その調査の中から、とくに重要な発見のあった遺跡を取り上げ、出土品をいち早くみなさまに見ていただくために企画し、県内各地で開催しています。

当センターからは旧石器時代(成田市東峰御幸畑西遺跡)、縄文時代(流山市三輪野山貝塚)、奈良・平安時代(印西市鳴神山遺跡)の出土品を出展しています。

東峰御幸畑西遺跡では、たくさんの石器が大きな輪を描くようにして散らばって発見されました。これは、今から2万6千年から2万9千年前の旧石器時代のもので、大きな斧のような形をした石器もあれば、小指より小さな石器もあります。

また、奈良時代から平安時代にかけてのムラの跡が姿を現した鳴神山遺跡では、ふだんの生活で使われた土器とともに、墨で文字を書いた土器がたくさん発見されました。昔の人が書いた様々な文字をご覧ください。



各開催館では、会期中講演会等のイベントが行われます。多数のご参加をお待ちしております。

なお、出土遺物巡回展の日程や講演会等の詳細は千葉県文化財センターHP(www.chibaken-bunkazai-center.or.jp)でご確認下さい。

千葉県文化財センターでは、県内から出土した様々な出土品を学校や、公民館等へ貸出しています。併せて、実物の資料を有効に活用し、地域の歴史について理解を深めていただくために出前授業も実施しています。

また、「火おこし」「勾玉作り」「縄文の文様付け」「石器(模造品)の切れ味体験」等の体験プログラムも用意しています。費用は無料!皆様の町まで宅配します。これまでに、多くの小中学校や、社会教育施設で利用されています。ぜひご利用下さい。

写真は先日PTA主催の夏休み特別講座として、佐倉市立寺崎小学校に出前授業にうかがった時のものです。2日間にわたって、1年生から6年生までの子供達と、火おこしをしたり勾玉を作ったりしました。暑さも忘れて、みんなとても楽しそうでした。



発掘調査速報	縄文人の地下倉
遺物紹介コーナー	古代人のおしゃれ
遺跡今昔物語	古代の役所発見!
埋文アラカルト	コラム・埋文レポート
	お知らせコーナー



「縄文人の地下倉!?!」 — 柏市大松遺跡 —



竪穴住居跡

柏市の北部を流れる利根川、その川面を見渡せる高台に大松遺跡はあります。

つくばエクスプレスの建設にともない、平成13年12月から発掘調査がはじめられ、旧石器時代から縄文時代までの生活の跡や遺物がたくさんみつかりました。

なかでも注目されるのは、縄文時代中頃（約4,000年前～5,000年前）の47軒の竪穴住居跡をとりまくように掘られた、100基を超えるたくさんの円筒状・袋状の大きな穴です。

これらの穴は、木の実など食料を貯蔵するためにつくられたものと考えられます。

調査は現在も進められていますので、終了までには、この台地にあった当時のムラの様子がさらにわかるかもしれません。



＜袋状の大きな穴＞



古代人のおしゃれ — らせん状鉄釧 —

今回は、弥生時代末～古墳時代はじめの珍しい釧（ブレスレット）を紹介します。

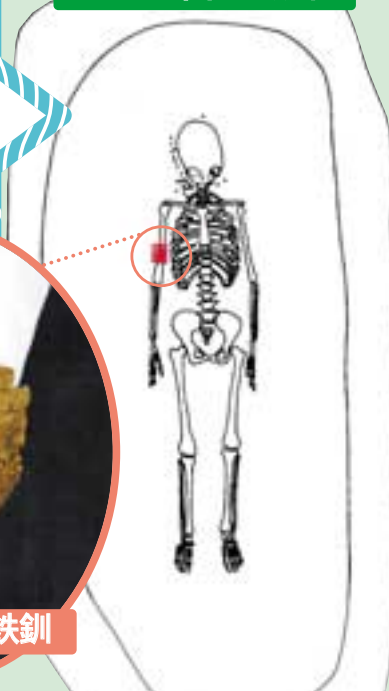
写真は、長さ1m、幅7mmほどの鉄の帯を6～7回巻いて、直径約5cmほどのらせん状にした腕飾りで、「鉄釧」といいます。市原市草刈遺跡I区の墓穴からみつかりました。また草刈遺跡では、釧が右上腕部分に、はめられた状態の人骨も発見されています（図）。

作り方は、はじめに鉄の棒を叩き延ばして細長い鉄の帯にします。次に断面がかまぼこ形になるように外側を丹念に磨きます。最後に、これを筒状のものに巻きつけていき完成です。

当時は、青銅の輪をいくつも連ねた腕飾りなども流行っていましたが、らせん状の鉄の腕飾りはたいへん珍しいものです。はたして、どのような人が身につけていたのでしょうか？

実際にみつかった人骨は頭と脊椎、足の骨の一部で、首には石製のビーズの首飾りをつけていました

草刈I区出土状況図



草刈L区出土鉄釧

日本の時代区分表

旧石器時代

縄文時代

弥生時代

古墳時代

平安時代

鎌倉時代

室町時代

江戸時代

明治時代

昭和時代

平成時代

(注)日本の旧石器時代の始まりについては、現在、再検討されています。よって、本紙では、新たな見解が発表されるまで、年代の記載を中止いたします。

約12,000年前 (この表は、100年を5mmで表現してあります。したがって、縄文時代は約50cmにもなります。)

約2,300年前

約1,700年前

飛鳥時代

西暦 794

奈良時代

1,192

1,333

1,573

1,603

1,868

安土・桃山時代

大正

古代の役所発見! — 我孫子市日秀西遺跡 —



昭和53年2月、我孫子市日秀地区に県立湖北高等学校を建設するため、予定地内の発掘調査が行われました。

この日秀西遺跡は手賀沼の北側の台地上にあります。古墳時代後期は多くの竪穴住居跡からなる集落でしたが、その後、奈良時代に入ると、大規模な倉庫など50棟以上の建物が整然と建ち並びました。この建物群は、下総国相馬郡の役所*1に属する倉庫（正倉）と考えられています。

また、この遺跡からは和同開珎の銀銭も見つかりました。和同開珎は日本古代の銭貨のひとつで、和銅元年（西暦708年）にはじめて作られました。銀・銅の2種類の素材でつくられましたが、銀製のものは全国的にも珍しいものです。

古代の役所の遺構としては県内最初の発見であり、関東地方でも珍しいことから、遺跡の一部が保存のため埋め戻され、出土品の一部も校内に展示されるなど学校教育にも活用されています。

さらに、平成7年には県指定史跡にも指定されました。

和同開珎



調査前



調査中



現在の湖北高等学校

*1古代の千葉県は、上総・下総・安房の3カ国に分かれ、それぞれの国はいくつかの郡からなっていました。

BC(紀元前) | AD(紀元後)